

令和8年度ストック・トルコギキョウ・スターチス病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行: J A さがえ西村山
さがえ西村山花き振興協会

ストック

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法【使用時期/使用回数】	注意事項																		
（床土種前）	苗立枯病 萎凋病 〔苗腐病・立枯病〕		床土の消毒を行う。	高温多湿は発生を助長するので通風をはかる。																		
まはたは植付前種	萎凋病	8F	<ul style="list-style-type: none"> 本畑の土壤消毒 バスアミド微粒剤^④30～40kg/10a〔は種又は植付前/1回〕を均一に散布して土壤と混和する。混和後、ビニール等で被覆する。 適度の土壤水分のときに使用する。 被覆後7～14日に被覆を除去し、少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きをおこない、散布後21日以上経てから作付けする。 土壤還元による方法 圃場に多量の水と有機物（米ぬか）を投入し、ビニール等で被覆して還元化を促進し農薬を使わずに病害虫を死滅させることができる。但し、米ぬかによる殺菌殺虫などの直接的な防除効果は期待できない。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>処理適期</th> <th>投入量</th> <th>被覆期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月上旬～7月下旬 (地下10～15cmの地温が30℃以上確保できる時期)</td> <td>1,000kg/10a</td> <td>約20日</td> </tr> </tbody> </table>	処理適期	投入量	被覆期間	6月上旬～7月下旬 (地下10～15cmの地温が30℃以上確保できる時期)	1,000kg/10a	約20日	<ol style="list-style-type: none"> 病害の発生を抑制するため排水をはかる。 萎凋病の発病したほ場を耕耘した際は、トラクターロータリーに付着した土を洗い落とし、次のほ場に入るよう注意する。 土壤消毒を実施した場合は、減肥を行なう。 												
処理適期	投入量	被覆期間																				
6月上旬～7月下旬 (地下10～15cmの地温が30℃以上確保できる時期)	1,000kg/10a	約20日																				
定植時	コナガ	1A	オンコル粒剤5を1株当たり0.5g〔定植時/1回〕を株元散布する。	茎葉、根に薬剤が直接触れないように注意する。																		
生育期	菌核病	1	トップジンM水和剤 1,500倍 (6.6g/10ℓ) [-/5回以内] を散布する。	<ol style="list-style-type: none"> ハウス内の換気をはかり、過湿にならないよう注意する。 着蕾期以降は汚染をさけるため散布しない。 菌核病の発病株はすみやかに抜取り適正に処分する。 																		
	灰色かび病	19 9 7	ポリオキシンAL水溶剤 2,500倍 (4g/10ℓ) [発病初期/8回以内] フルピカフロアブル 3,000倍 (3.3mℓ/10ℓ) [発病初期/5回以内] アフェットフロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発病初期/3回以内] のいずれかを散布する。	<ol style="list-style-type: none"> 着蕾期以降は高温時に葉害が出ることがあるので注意する。 フルピカフロアブルはおうとうに葉害のおそれがあるので注意する。 																		
	モザイク病 〔カブモザイクウイルス〕 〔キュウリモザイクウイルス〕		<ol style="list-style-type: none"> ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 アブラムシ類の防除を徹底する。 被害株は早期に抜き取り適切に処分する。 	発病株に触れた手で健全株に触れない。																		
	コナガ 〔ヨトウムシ類〕 〔アオムシ〕 〔アブラムシ類〕 〔ハイマダラノメイガ〕		<ol style="list-style-type: none"> ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 コナガ成虫は見つけ次第捕殺する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループ(A～F)で輪用散布を行う。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>1B</th> <th>A</th> <th>オルトラン水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/5回以内]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11A</td> <td>B</td> <td>トアロー水和剤CT 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/-]</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>C</td> <td>ノーモルト乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/2回以内]</td> </tr> <tr> <td>3A</td> <td>D</td> <td>マブリック水和剤20^④ 2,000倍 (5g/10ℓ) [発生初期/2回以内]</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>E</td> <td>コテツフロアブル^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/2回以内]</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>F</td> <td>アファーム乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/5回以内]</td> </tr> </tbody> </table>	1B	A	オルトラン水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/5回以内]	11A	B	トアロー水和剤CT 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/-]	15	C	ノーモルト乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/2回以内]	3A	D	マブリック水和剤20 ^④ 2,000倍 (5g/10ℓ) [発生初期/2回以内]	13	E	コテツフロアブル ^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/2回以内]	6	F	アファーム乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/5回以内]	<ol style="list-style-type: none"> ヨトウムシ類、アオムシは若齢幼虫時に防除する。 マブリック水和剤20^④は、幼苗期や軟弱な生育のときの使用はさける。 ハイマダラメイガの防除時期は、八重鑑別前からの防除を徹底する。 ノーモルト乳剤は、高温時の散布をさける。 トアロー水和剤CT、ノーモルト乳剤、マブリック水和剤20^④、コテツフロアブル^④、アファーム乳剤は、蚕毒が強いので注意する。 オルトラン水和剤は、アブラムシ類、ハイマダラノメイガにも登録がある。 アファーム乳剤はヨトウムシ類には1,000倍で散布する。
1B	A	オルトラン水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/5回以内]																				
11A	B	トアロー水和剤CT 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/-]																				
15	C	ノーモルト乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/2回以内]																				
3A	D	マブリック水和剤20 ^④ 2,000倍 (5g/10ℓ) [発生初期/2回以内]																				
13	E	コテツフロアブル ^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/2回以内]																				
6	F	アファーム乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/5回以内]																				
	ハモグリバエ類	6	アファーム乳剤 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [発生初期/5回以内] を散布する。	発生の多い場合は、アクタラ顆粒水溶剤2,000倍〔発生初期/6回以内〕を使用できる。																		
	アブラムシ類	4A	モスピラン顆粒水溶剤 ^④ 4,000倍 (2.5g/10ℓ) [発生初期/5回以内] を散布する。	モスピラン顆粒水溶剤 ^④ は蚕毒が強いので注意する。																		

トルコギキョウ

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法【使用時期/使用回数】	注意事項
（定植前）	株立腐枯病 〔根腐病〕	8F	バスアミド微粒剤 ^④ (20～30kg/10a) [は種又は植付前/1回] を均一に散布して土壤と混和し、ビニール等で被覆する。	<ol style="list-style-type: none"> 病害の発生を抑制するため排水をはかる。 適度の土壤水分のときに使用する。 被覆後7～14日に被覆を除去し、少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きをおこない、散布後21日以上経てから作付けする。
生育期	灰色かび病	19 9 7	ポリオキシンAL水溶剤 2,500倍 (4g/10ℓ) [発病初期/8回以内] フルピカフロアブル 3,000倍 (3.3mℓ/10ℓ) [発病初期/5回以内] アフェットフロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発病初期/3回以内] のいずれかを散布する。	<ol style="list-style-type: none"> ハウス内の換気をはかり、過湿にならないよう注意する。 フルピカフロアブルは、おうとうに葉害のおそれがあるので注意する。
	株腐病	14	リゾレックス水和剤 500倍 (3ℓ/m ³) [生育期/5回以内] を土壤灌注する。	
	モザイク病 〔えそ斑紋病〕 〔えそモザイク病〕		<ol style="list-style-type: none"> ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 アブラムシ類・アザミウマ類を防除する。 被害株は早期に抜き取り適切に処分する。 	発病株に触れた手で健全株に触れない。
	斑点病	7 11	パレード20フロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発病初期/3回以内] メジャーフロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発病初期/3回以内] のいずれかを散布する。	<ol style="list-style-type: none"> アフェットフロアブル、パレード20フロアブルは同一成分とみなし、耐性菌出現防止のため連用は避け、総使用回数は2回以内とする。 メジャーフロアブルには展着剤を加用しない。
	ハダニ類	21A	ピラニカEW ^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/1回] を散布する。	
	アザミウマ類 〔ミカンキロアザミウマ〕 〔ヒラズハナアザミウマ〕 〔アブラムシ類〕	1B 1B 3A	<ol style="list-style-type: none"> ジェイエース粒剤を株当たり1～2g（但し、9kg/10aまで）〔発生初期/5回以内〕を株元散布する。 ジェイエース水溶剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/5回以内] マブリック水和剤20^④ 4,000倍 (2.5g/10ℓ) [発生初期/2回以内] のいずれかを1番花開花前までに散布する。 	<ol style="list-style-type: none"> ミカンキロアザミウマの発生が多い場合は、コテツフロアブル^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/2回以内] を散布する。 ヒラズハナアザミウマの発生が多い場合は、アディオンフロアブル^④ 1,500倍 (6.6mℓ/10ℓ) [-/6回以内] を散布する。 マブリック水和剤20^④は開花前までに散布する。
	ハスモンヨトウ	3A	トレボン乳剤 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [-/6回以内] を散布する。	
	オオタバコガ	28 6	フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [発生初期/4回以内] を散布する。 アファーム乳剤 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [発生初期/5回以内] を散布する。	

スターチス

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法【使用時期/使用回数】	注意事項
生育期	灰色かび病	10.1 2 9	ゲッター水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [-/5回以内] ロプラール水和剤 1,500倍 (6.6g/10ℓ) [-/8回以内) フルピカフロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発病初期/5回以内] のいずれかを散布する。	<ol style="list-style-type: none"> ハウス内の換気をはかり、過湿にならないよう注意する。 フルピカフロアブルは、おうとうに葉害のおそれがあるので注意する。 フルピカフロアブルは、うどんこ病にも効果がある。
	ウイルス病		1. 被害株は早期に抜きとり、適切に処分する。 2. アブラムシ類、アザミウマ類を早期に防除する。	
	アブラムシ類	1B 1B 4A	ジェイエース粒剤 2g/株 (但し、9kg/10aまで) [発生初期/5回以内] を株元散布する。 ジェイエース水溶剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/5回以内] アドマイヤーフロアブル ^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/5回以内] のいずれかを散布する。	<ol style="list-style-type: none"> ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 ジェイエース粒剤、ジェイエース水溶剤は、アザミウマ類にも登録がある。
	ミカンキロアザミウマ	4A	アクタラ顆粒水溶剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [発生初期/6回以内] を散布する。	
	ヨトウムシ	3A	アディオンフロアブル 1,500倍 (6.6mℓ/10ℓ) [-/6回以内] を散布する。	
	ハダニ類	21A 10B	ピラニカEW ^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/1回] バロックフロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [発生初期/1回] のいずれかを散布する。	ピラニカEW ^④ は高温時に葉害が発生する場合があるので注意する。